大山 平一郎 OHYAMA Heiichiro【ヴィオラ】

英国のギルドホール音楽学校を卒業。1972 年マールボロ音楽祭にヴィオリストとして参加後数多くの国際音楽祭に招待され、またギドン・クレーメル、ラドゥ・ルプー、ミッシャ・マイスキーなど著名な音楽家とも共演する。1973 年カリフォルニア大学助教授に就任。1979 年にジュリーニ率いるロサンゼルス・フィルハーモニー管弦楽団の首席ヴィオラ奏者に任命され、1987 年にプレヴィンから同楽団の副指揮者に任命される。その後サンタフェ室内楽音楽祭芸術監督、九州交響楽団の常任指揮者、大阪交響楽団の音楽顧問・首席指揮者等を歴任。福岡市文化賞、文部科学大臣賞（芸術祭優秀賞）を受賞。現在、The Lobero Theatre Chamber Music Project（米国サンタ・バーバラ）音楽監督、CHANEL Pygmalion Days 室内楽シリーズのアーティスティック・ディレクター、Music Dialogue 芸術監督。

金子 鈴太郎 KANEKO Rintaro【チェロ】

桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立リスト音楽院に学ぶ。国内外のコンクールで優勝、入賞。2003 年～2008 年 大阪交響楽団特別首席チェロ奏者。現在は各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ等で活躍中。トウキョウ・モーツァルトプレーヤーズ首席、Super Trio 3℃、長岡京室内アンサンブル、東京バロックプレイヤーズ各メンバー。2022 年 4 月より、響ホール室内合奏団首席チェロ奏者。Music Dialogue アーティスト。

■次回のご案内■　Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2022-2023 3 月公演

・演奏曲目

モーツァルト 弦楽五重奏曲 第 5 番 ニ長調 K.593

ブラームス 弦楽六重奏曲 第 2 番 ト長調 作品 36

・出演者

篠原悠那、枝並千花、山本周、大山平一郎、矢部優典、加藤文枝

・字幕実況解説付きリハーサル

2023 年 2 月 28 日（火）19:00 開演(中目黒 GT プラザホール)

・本公演

2023 年 3 月 3 日（金）19:00 開演(築地本願寺 講堂)

チケットはこちらから

Music Dialogue は、皆様からのご支援により支えられております。

以下の方々からご寄付を頂いております。心より感謝申し上げます。

椿紅子 様・野口博司 様、福羽泰紀 様、高橋達史 様、河本宏子 様、出石直 様、貴田守亮 様

（順不同）

Music Dialogue ディスカバリー・シリーズ 2022-2023 Vol.2

加賀町ホール

2022 年 12 月 23 日（金）開演 19：00

◆ダリウス・ミヨー 『世界の創造』によるピアノと弦楽四重奏のための演奏会用組曲 作品 81b

第 1 曲 前奏曲 Prélude　第 2 曲 フーガ Fugue　第 3 曲 ロマンス Romance
第 4 曲 スケルツォ Scherzo　第 5 曲 終曲 Final

吉見友貴(Pf.) 北川千紗(Vn.) 石上真由子(Vn.) 大山平一郎(Va.) 金子鈴太郎(Vc.)

◆アントン・ブルックナー 弦楽五重奏曲 ヘ長調 WAB112

I. Gemäßigt　II. Scherzo. Schnell
III. Adagio　IV. Finale. Lebhaft bewegt

石上真由子(Vn.) 北川千紗(Vn.) 田原綾子(Va.) 大山平一郎(Va.) 金子鈴太郎(Vc.)

◆お客様とのダイアローグ
※演奏者に聞いてみたいことなどありましたらぜひ、以下の方法か
右の QR コードから質問を送信してください。
インターネットにて「**sli.do**」と検索→イベントコード「**1152085**」を入力

［主催］一般社団法人 Music Dialogue
［協力］日本音楽財団（日本財団助成事業）
［助成］芸術文化振興基金

作品解説

◆ダリウス・ミヨー（1892～1974）：『世界の創造』によるピアノと弦楽四重奏のための演奏会用組曲 作品 81b

ミヨーと聞いて何か思い浮かべることはあるだろうか。「六人組」のひとりとしても知られるダリウス・ミヨー(1892–1974)は、20 世紀のフランスを中心に活躍した作曲家だ。彼は世界各地の幅広い音楽に関心を寄せており、ロンドンやニューヨークで出会った「ジャズ」にも興味を持った。つまり、アメリカの新しい音楽を通してアフリカの文化に魅せられたのだ。

《世界の創造》(1923)は、1920 年に創設されたバレエ・スエドワ(スウェーデン・バレエ団)から依頼を受け、ジャズの要素を取り入れて書き上げたバレエ音楽である。本公演で演奏されるピアノ五重奏による演奏会用組曲は 1926 年に作曲者自身によって編曲された。原作のバレエ音楽がガーシュイン(1898–1937)の《ラプソディ・イン・ブルー》(1924)よりも 1 年早く作曲されたことは注目すべき点といえるだろう。

バレエ《世界の創造》はアフリカの民話から着想を得ている。3 体の神によって動植物や男女の創造される様子が音楽で描かれると、その恋愛へと展開してゆく。西洋に由来する音楽形式フーガや、アフリカ系アメリカ人によるブルースなどが用いられることで、聴き手はクラシックとジャズを同時に聴いているかのような感覚へと導かれてゆく。ミヨーの新たな音楽に対する好奇心は《世界の創造》において、このように表われているのだ。

（解説：秋道 瑠香）

◆アントン・ブルックナー（1824～1896）：弦楽五重奏曲 ヘ長調 WAB112

いまでは交響曲の大家として知られるオーストリアの作曲家アントン・ブルックナー(1824–96)。この評価はしかし、当初から盤石なものでは決してなかった。転換点となったのは 1884 年に初演された第 7 番の成功で、このときすでにブルックナーは還暦を迎えていた。その喝采の僅か数日後に全曲初演されたのが《弦楽五重奏曲》であった。

本作品は音楽院の上司で当時最高峰の四重奏団を率いるヴァイオリニスト、ヨーゼフ・ヘルメスベルガーの幾度もの要請に応じて、1878–79 年に作曲された。作曲家は第 2 楽章が演奏困難だと言われたことで代わりに《間奏曲》を作曲したが、初演では差し替えられることなく初稿が演奏された。その全作品の中でもきわめて早い 1884 年に楽譜出版された本作が、その後ブルックナーの交響曲受容へ与えた影響は想像に難くない。

第 1 楽章は穏やかな主題で始まり、溌剌とした主題によって華やかに締めくくられる。これに続くのはどこか力の抜けたトリオを持ったスケルツォ。長大な第 3 楽章では、霧の中から立ち昇るようなヴィオラの旋律が展開され、フーガと共に壮大な音響が築かれる。終楽章では様々な着想が冒頭主題をもとに組み合わされてゆく。

突然の総休止・ぎこちない旋律・頻繁な転調といった特徴はブルックナーの交響曲とも共通する。しかし、これら作曲家の溢れんばかりの創意こそ、独自の魅力を放ち、この作品が単なる委嘱作ではないことを示している。

（解説：山崎 圭資）

演奏者プロフィール

吉見 友貴 YOSHIMI Yuki【ピアノ】

2000 年生まれ。高校 2 年在学中、第 86 回日本音楽コンクールで最年少優勝を果たす。2021 年エリザベート王妃国際コンクールセミファイナリスト。CHANEL Pygmalion Days 2019 年度アーティスト。これまでに東響、東京シティ・フィル、東フィル、日本フィル、新日本フィル、神奈川フィル等と共演。現在、ニューイングランド音楽院(ボストン)に奨学生として在学中。アレクサンダー・コルサンティア、上野久子、伊藤恵の各氏に師事。2019 年、2020 年度ローム・ミュージック・ファンデーション奨学生。第 51 回江副記念リクルート財団奨学生。

北川 千紗 KITAGAWA Chisa【ヴァイオリン】

2020 年日本音楽コンクール第 1 位、岩谷賞（聴衆賞）を含む 4 つの特別賞を受賞。2021 年スピバコフ国際バイオリンコンクール（ロシア）第 2 位。2009 年より 11 の国際コンクールとオーディションにおいて優勝、グランプリを獲得。欧州を中心に国際音楽祭に出演しソリストとして国内外多数のオーケストラと共演を重ねる。CHANEL ピグマリオンデイズ 2019 アーティスト。江副記念リクルート財団第 46 回生。東京藝術大学附属音楽高等学校を経て同大学を卒業。桐朋学園大学大学院修士課程を修了し引き続き同学園大学院大学にて研鑽を積む。

石上 真由子 ISHIGAMI Mayuko【ヴァイオリン】

日本音楽コンクール等、内外で優勝・受賞多数。国内外でオーケストラとの共演も重ね、ソロ・室内楽・オーケストラ等、幅広く活躍。題名のない音楽会や NHK クラシック音楽館等、メディア出演も多数。Music Dialogue、CHANEL Pygmalion Days 室内楽、おんかつアーティスト。京都市芸術新人賞、音楽クリティック・クラブ賞、大阪文化祭賞、青山音楽賞受賞。日本コロムビアより CD「ヤナーチェク:ヴァイオリン・ソナタ」「ブラームス :ピアノとヴァイオリンのためのソナタ第 1 番」好評発売中。www.mayukoishigami.com

©Taira Tairadate

田原綾子 TAHARA Ayako【ヴィオラ】

第 11 回東京音楽コンクール、第 9 回ルーマニア国際音楽コンクール優勝。
国内外でソロリサイタルが定期的に行われており、ソリストとして読売日響、都響、東響、東京フィル等と共演。室内楽奏者としても国内外の著名なアーティストと多数共演している。現代音楽にも意欲的に取り組んでおり、新作委嘱も数多い。第 23 回ホテルオークラ音楽賞受賞。これまでに藤原浜雄、故岡田伸夫、ブルーノ・パスキエ、ファイト・ヘルテンシュタインの各氏に師事。サントリー芸術財団より Paolo AntonioTestore を貸与されている。